

編集後記

- ◇ 本誌164号では、3月14日に開催した「令和6年度いも類講演会」を特集した。近年、注目されている病害虫複合抵抗性の「ながさき黄金」の開発経過、サツマイモ基腐病の克服に向けた抵抗性品種の開発・普及の取り組み、三好アグリテック（株）におけるサツマイモ育種への取り組み、そして2冊のポテトチップスの歴史に関する著作執筆の経過を収録している。このほか『料理』と『いもと文化』のコーナーでは、SNSで活躍されている2人の若手女性活動家から新しい感性での原稿を寄稿いただいた。
- ◇ 本年4月11日には、改正基本法に基づく新たな食料・農業・農村基本計画が閣議決定された。国際情勢が激しく揺れ動く中、国内では人口減少や高齢化が顕著となっていることなどを踏まえて、平時から食料安全保障を確保することに主眼が置かれている。いも類は、この観点からも非常に重要な作物であり、ジャガイモの種芋供給体制の確保など、着実な対応を強く期待したい。
- ◇ 4月末、山梨県上野原市の龍泉寺で開催された芋大明神祭を訪れた。本誌163号の「おいも探訪」でも紹介したように、江戸時代、天明の大飢饉の際に代官、中井清太夫がジャガイモ栽培で領民を飢えから救ったことに由来する伝統行事である。地元ではジャガイモを親しみを込めて「せいだ芋」「せいだんぼう」と呼び、このイベントが連綿と継続されていることに改めて感銘を受けた。
- ◇ 東京の小平市でもジャガイモは栽培されているが、今年は綺麗な白い花が目立つのに気付いた。品種は「とうや」。幅広くて厚く大きな葉が特徴的である。「男爵薯」や「メイクイン」から置き替わった模様。自宅の庭では今年もコンニャク芋が開花し、ヤマイモはミカンの株元から蔓を誘引してグリーンカーテンを形成中。イレギュラーな『活用法』ではあるが、これからの猛暑をしのぐツールとして効果を期待している。

いも類振興情報 第164号
2025(令和7)年7月15日発行

定価 1部 500円
年間購読料(季刊) 2,000円

発行 一般財団法人 いも類振興会
〒107-0052 東京都港区赤坂6-10-41 ヴィップ赤坂303
TEL 03-3588-1040 FAX 03-3588-1225
E-mail: jrta@imoshin.or.jp
郵便振替 00130-1-110152

印刷 株式会社丸井工文社